

全国に残る掩体壕



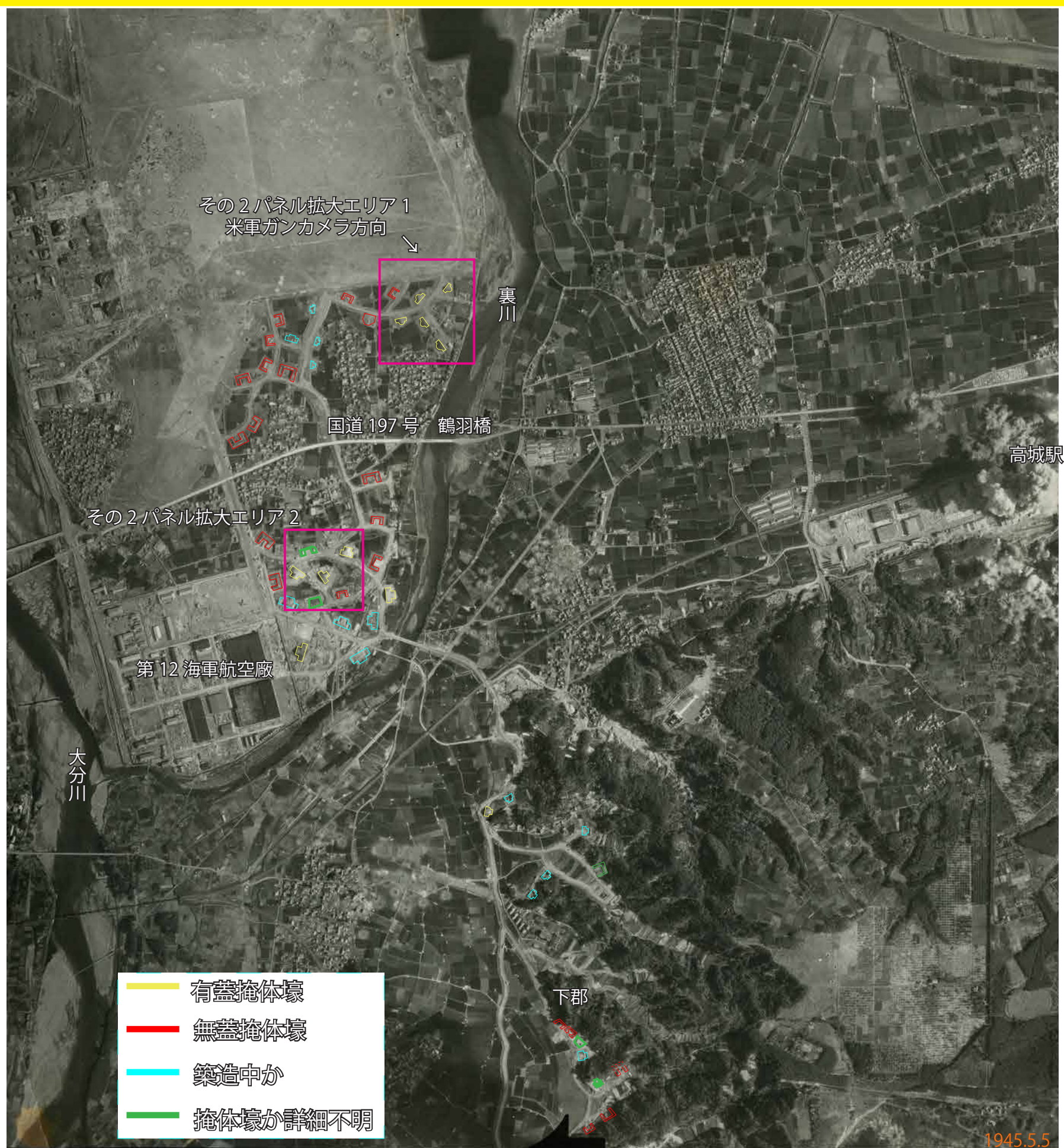
現在確認できる掩体壕は戦前には日本軍の植民地だった海外も含め
で約 266 基、日本国内では約 240 基が残存していると思われます。
近年の技術進歩により、発見される無蓋掩体壕等もありますが、同時
に開発や老朽化により消滅する掩体壕も存在します。

海外を含めた全国の現存掩体壕一覧表

所在地県	所在地市町村	有蓋掩体壕	無蓋掩体壕	市町村合計	地方内訳	地方合計
北海道	宗谷郡猿払村		?	?	有蓋 13	19
	網走郡大空町	2		2	無蓋 6	
	別海町	3		3		
	標津町		4	4		
	根室市	7?		7?		
	千歳市	1 ?	2?	3?		
栃木県	宇都宮市	2		2	有蓋 26	38
	大田原市	1		1	無蓋 12	
東京都	府中市	2		2		
	三鷹市	2		2		
	板橋区	1		1		
神奈川県	横浜市金沢区	1		1		
茨城県	稲敷郡阿見町	1		1		
	鹿嶋市	1		1		
	筑西市		3	3		
千葉県	印西市		3	3		
	柏市		6	6		
	茂原市	10		10		
	館山市	2		2		
	旭市	1		1		
	匝瑳市	2		2		
山梨県	南アルプス市		3	3	有蓋 11	14
岐阜県	各務原市	6		6	無蓋 3	
愛知県	小牧市	4		4		
静岡県	浜松市	1		1		
三重県	鈴鹿市	1		1	有蓋 4	23
滋賀県	東近江市	2	15	17	無蓋 19	
大阪府	八尾市	1		1		
奈良県	天理市		4?	4?		
鳥取県	米子市	5		5	有蓋 6	8
	境港市		2?	2?	無蓋 2	
山口県	岩国市	1		1		10
高知県	南国市	7		7	有蓋 10	
愛媛県	松山市南吉田町	3		3		130
福岡県	福岡市東区西戸崎		30 ～	30 ～	有蓋 56	
	朝倉郡筑前町	1		1	無蓋 74	
	行橋市	3	7	10		
	芦屋町	13?		13?		
佐賀県	神埼郡吉野ヶ里町		1	1		
長崎県	大村市	1		1		
熊本県	玉名市、大浜町、豊水町		1			
	球磨郡錦町		3	3		
	球磨郡あさぎり町		5	5		
鹿児島県	鹿屋市	1	5	6		
	出水市	3		3		
	南九州市知覧町		10	10		
	喜界町	1		1		
	南九州市穎娃町上別府		7	7		
	甘城町浅間		1	1		
宮崎県	宮崎市	7		7		
	児湯郡新富町新田原	4		4		
	日向市	(1)		(1)		
大分県	佐伯市		2	2		
	宇佐市	10	1	11		
沖縄県	那覇市高良	1		1		
	読谷村座喜味	1		1		
	沖縄市白川白川原	8		8		
	石垣市真栄里	1		1		
	石垣市大浜		1	1		
韓国	済州島	19		19	有蓋 24	24
台湾	高尾州	5?		5?		
	海外を含む全国 266	150	116	266	有蓋 150	266
	日本国内 242				無蓋 116	

大分航空基地

海軍
大分県大分市



大分市には現在掩体壕はありませんが、1945年5月5日の米軍が撮影した大分市青葉町付近の航空写真では約45基（13基は基礎のみ、築造中か）の掩体壕が写っており、遠く^{しもごおり}下郡のほうまで誘導路が延ばされている様子が確認できます。滑走路から遠くの掩体壕まで飛行機を運んでいたのは、機体を隠し、空襲を避け、被害を分散させるためと考えられます。

大分航空基地

海軍
大分県大分市

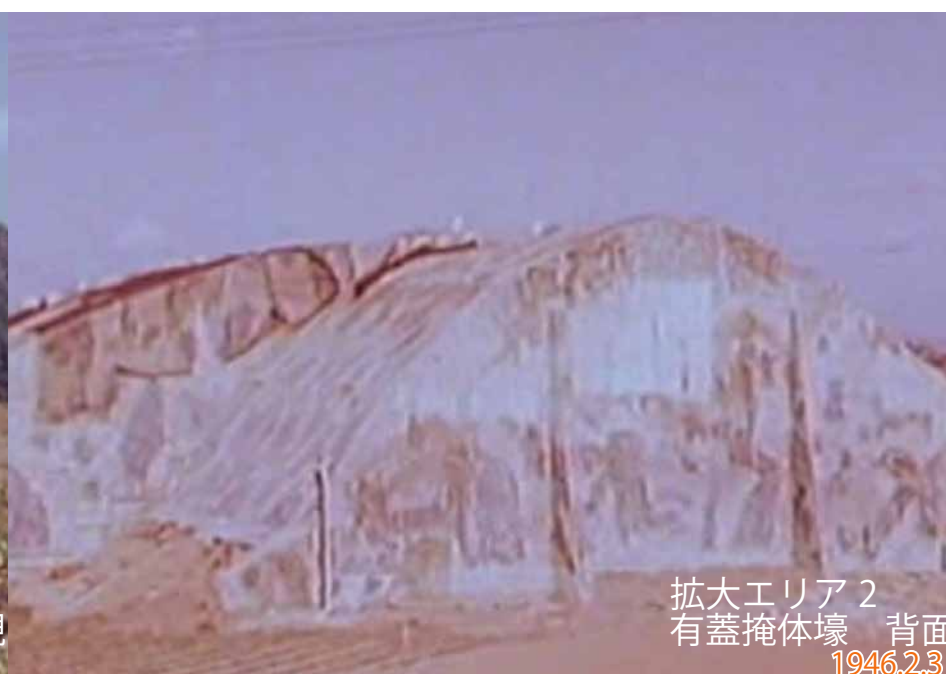
国道 197 号鶴羽橋方向
裏川



1945 年 3 月 18 日のガンカメラ映像に写る拡大エリア 1 の様子です。5 基のコンクリート製小型有蓋掩体壕と、攻撃を受ける飛行機を格納した 1 基の無蓋掩体壕が写されています。



前部



後部

1946 年 2 月 3 日に米軍が戦後撮影したパネルの拡大エリア 2 の様子です。このエリアはコンクリート製中型有蓋掩体壕で、凸型をしています。前部と後部は同じ高さで、外面奥壁には支脚が確認できます。後部の内面天井は型枠を使用し、角ばった形状をしています。

佐伯航空基地

海軍
大分県佐伯市



佐伯市の工場敷地内には**コンクリート有蓋掩体壕が2基現存**しており、そのうち左は**国の登録文化財になっています(①)**。2基とも^{まえたれ}前垂があるものの、開口部は広く開いています。設置された看板には、^{れいしきかんじょうせんとうき}零式艦上戦闘機または三式戦闘機^{ひえん}飛燕が格納された可能性が高いとあります。宇佐基地の^{てんざん}天山を格納できるように改造した掩体壕の開口部形状と高さが近い**ため、当初から戦闘機だけでなく、天山等の様々な機体を格納できるように築造されたことが想定されます。**

現在の佐伯市には有蓋掩体壕が2基しかありませんが、戦争中は無蓋掩体壕も数多く存在していました。下図(②、③)は1945年3月に記録された佐伯航空基地を攻撃する米軍機のガンカメラ映像です。左図(②)はコの字型の無蓋掩体壕に機体が格納されている様子、右図(③)は無蓋掩体壕に格納されている機体を攻撃する米軍機の様子です。オレンジ色の粒は米軍機の機銃弾です。



たちあらい 大刀洗飛行場壕

陸軍
福岡県朝倉郡筑前町



大刀洗飛行場にはかつて 40 ～ 50 基の掩体壕が存在していましたが、**現存しているのはこの 1 基のみです。**令和 7 年 4 月に整備が完了し、掩体壕の内部には鉄骨の支えが設置され、負荷を軽減しています。また駐車場とトイレも完備し、より多くの方が見学に来られる活用の環境が整っていました。掩体壕はドーム型で、土饅頭と型枠を併用して築造されました。小型の戦闘機であれば 2 機が入る大きさをしており、規模が大きいいためか、内部中程の天井には補強の様な壁がついています。また開口部の上には陸軍にはあまりみられない前垂がついています。



天井の中程にみられる補強壁

さいとぎき 西戸崎飛行場

海軍
福岡県福岡市東区



①

福岡市東区にある「海の中道
青少年の家」には無蓋掩体壕が数
多く現存しています。仮 5 号掩体
壕（①）は、土を盛って築造した
無蓋掩体壕です。平面の形状は U
字型をしています。そのほかに確
認できた無蓋掩体壕もおおよそ同規

模、同形状をしていると思われます。

「海の中道青少年の家」周辺を「3D カシミール」というソフトにて、土地の高低差あら
わすと掩体壕の形が見えます。国土地理院の地図で傾斜量図という土地の高低差に陰影をつ
けても確認できます。今回現地踏査を行った結果、約 30 基の掩体壕を確認しました。調査
時間の関係から 2 基確認ができていませんが、高低差を出した地図にて形を確認できるため、
残存していると思われます。また現地は土地の改変をしており、掩体壕であったか判別が難
しいものもありますが、30 基近くの無蓋掩体壕が残存しているため、今後の調査研究や保
存に向けた活動などの動向から目が離せない掩体壕群であると言えます。



カシミール 3D で表示した地形の高低差 U 字状の掩体壕が確認できます。



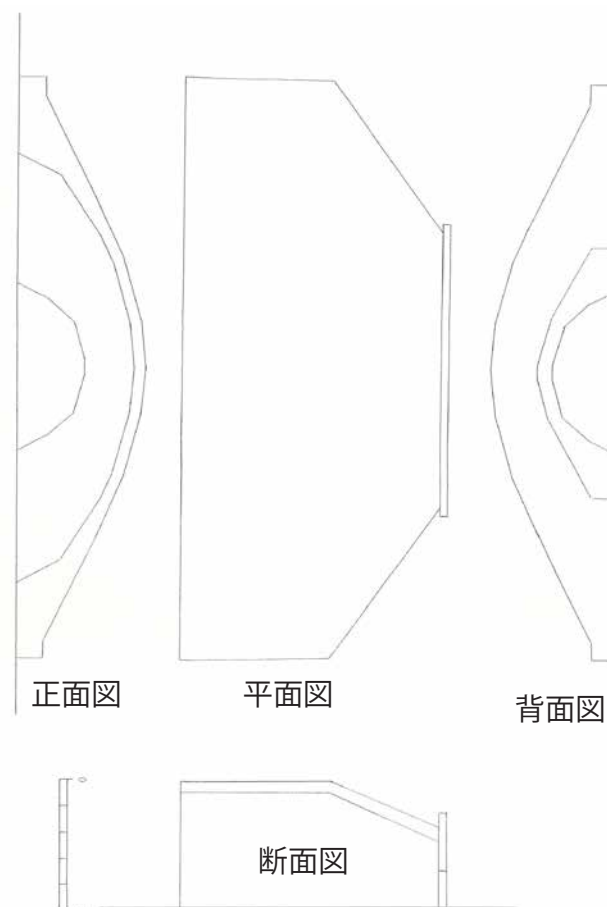
行橋市には 3 基の中型有蓋掩体壕、複数の無蓋掩体壕が現存しています。海軍築城航空
基地^{いなどう}稲童^{いなどう}掩体（①）は福岡県指定史跡で、現在は整備され公園になっています。発掘調査で
発見された掩体壕の前の爆弾の落ちた穴や、機銃掃射の痕跡はコンクリートで表示されてい
ます。掩体壕の^{まえたれ}前垂には今も機銃によりできた痕跡が残っており、空襲により攻撃された爪
痕を見ることができます。掩体壕内部の翼が入る部分の地面は一段高くなっており、防御性

を高めるためと考えられています。下写真
（②）も中型有蓋掩体壕であり、隣接する 3
基目も基本的には 1 号と同様の構造をして
いますが、後部の築造方法の細部に違いが
みられます。



とみたか 富高航空基地

海軍
宮崎県日向市



日向市教育委員会 2004

『財光寺 1 号掩体壕』より引用

富高航空基地のあった宮崎市日向市財光寺には 2 基のコンクリート製有蓋掩体壕が現存していました。しかし道路建設の計画により、その姿を消すことになりました。しかし、解体される前に、調査と記録作業をしていたため、今日でも報告書でその存在を知ることができます。報告書から前部アーチ型、後部ドーム型と分かります。また前垂^{まへたれ}はなく大きく開いています。2 号掩体壕も規模や形状は同様だったと報告されています。2 基の掩体壕は解体されましたが、財光寺 1 号掩体壕の一部分はモニュメントとして残すことが出来ており、小さくなりましたが今も歩道の一区画で戦争の記憶を伝え続けています。



にゅうたばる 新田原飛行場

陸軍
宮崎県新富町



宮崎県新富町には **4 基の有蓋掩体壕が現存**しています。滑走路跡は現在航空自衛隊が使用しています。掩体壕がある場所は**自衛隊基地の緩衝地帯**となっているため、**開発をまぬが**れており現在は農業用倉庫として使用されています。

仮 4 号（①）は東京都の府中市、三鷹市の掩体壕と似た姿で、ドーム形状をしています。内部天井には木枠の痕が確認できます（②）。基礎は土を盛って築造しており、上部は型枠を使用したと思われます。地面を掘削し築造したと思われ、地面に埋まったような姿をしており（③）、誘導路の両脇の土手状の部分が元の地面の高さだったと思われます。



宮崎航空基地

海軍
宮崎県宮崎市

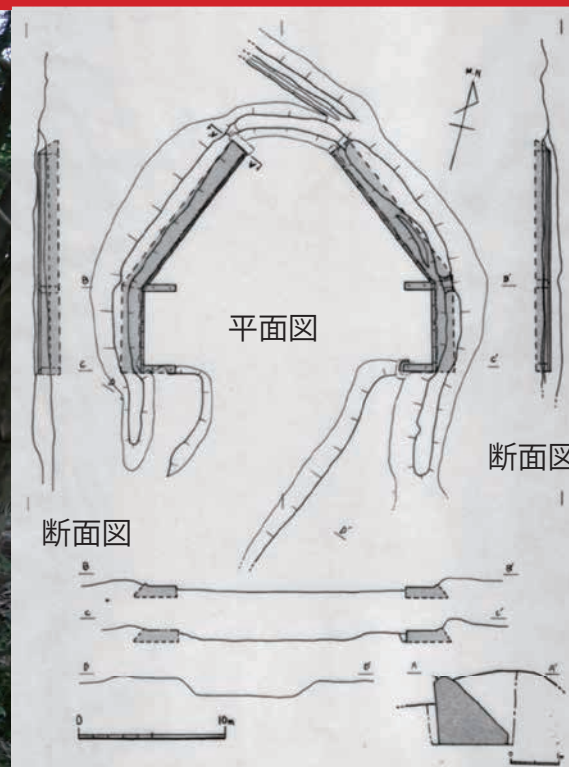


海軍宮崎基地は戦後に宮崎空港となっています。戦争中は約 50 基の掩体壕がありました。が、^{ほんごう}**本郷地区に 4 基**（内 1 基は前部基部と後部の一部が残存）、**空港周辺の赤江地区に 3 基の計 7 基の有蓋掩体壕が残存**しています。本郷地区に見られるこの中型掩体壕 1 基は市の所有で、説明看板と駐車場があります。真横には同規模の掩体壕が並んで現存しています。平面形態は凸型で、後部が前部と比べて低いため、横から見ると段差ができています。内面には型枠を使用した際の木の板の痕や露出している鉄網を観察することができます。安全面の観点から柵で囲われており、内部には入ることができません。



ひとく 人吉秘匿飛行場

陸軍
熊本県球磨郡
あさぎり町



永山の掩体壕 実測図
あさぎり町教育委員会 2017『陸軍人吉秘匿飛行場跡
- 木製有蓋掩体壕の埋蔵文化財発掘調査 - 』より引用

ながやま 永山の掩体壕は熊本県球磨郡あさぎり町に所在する木製有蓋掩体壕で、町登録文化財です

(①)。木製有蓋掩体壕とは、基礎はコンクリートですが、屋根は木製の掩体壕です。格納していたのは小型の一式戦闘機隼、三式戦闘機飛燕とされています。あさぎり町に残る無蓋掩体壕は全て飛行場の滑走路からは離れた位置にあります。移動の手間があり本来不便なはずですが、本土決戦時の特攻作戦に使用するまで、空襲で壊されないように隠す必要があったためあえて遠くに築造されました。

永山の掩体壕は現在個人宅の裏にあり、昭和20年4月から6月頃に造られたとの証言があります。終戦後この掩体壕の木製屋根を解体して納屋の材料にしていたため、現在も木製有蓋掩体壕の屋根を構築していた木材が多数残存しています(②)。木材の両端には墨書きの文字が確認できます。



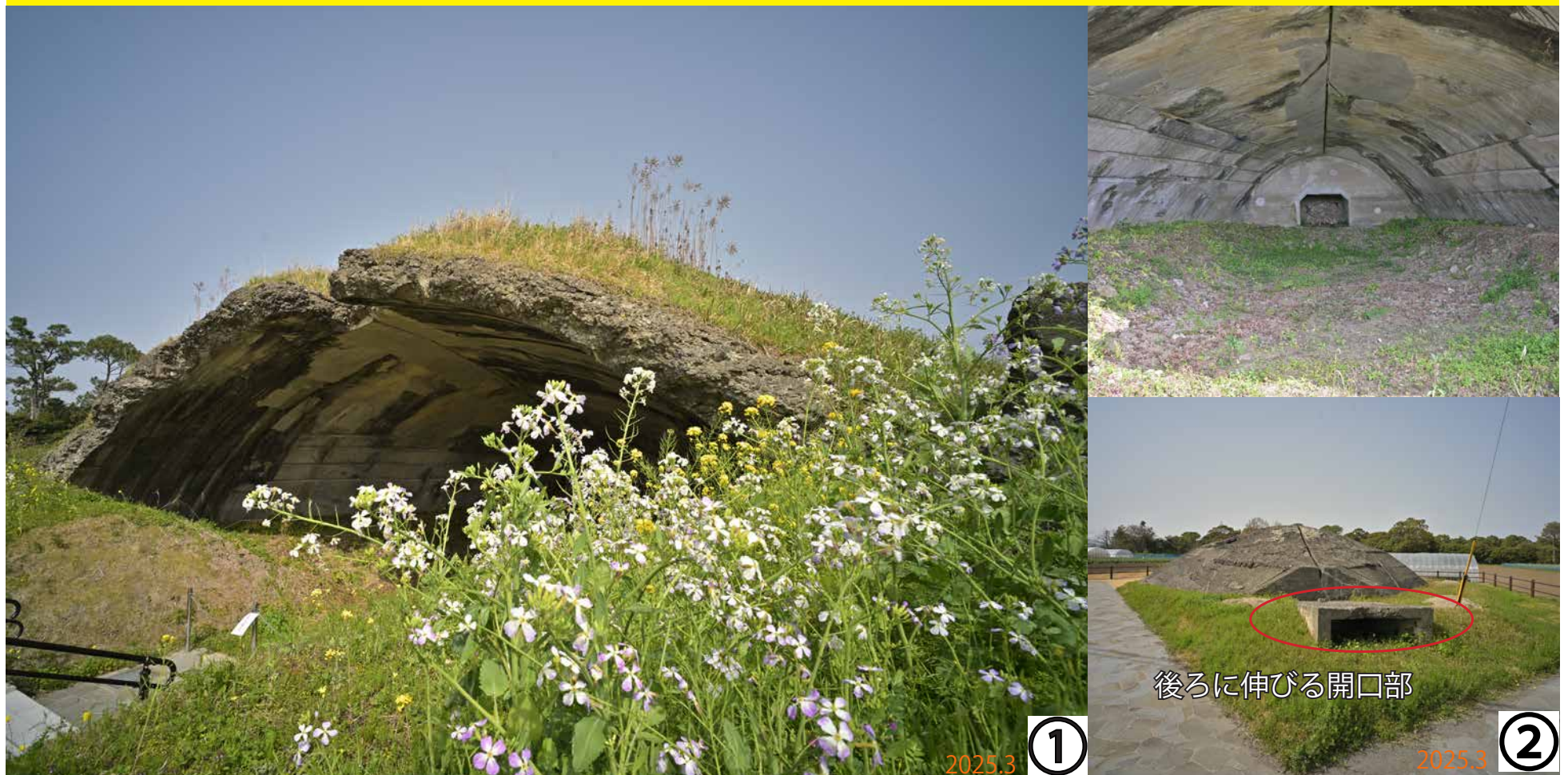
かさのほら 笠之原航空基地

海軍
鹿児島県鹿屋市



川東掩体壕（①）は^{かさのほら}笠野原基地にあったコンクリート製有蓋掩体壕で、**現在鹿屋市内に残る最後の有蓋掩体壕**です。笠野原基地とは別に鹿屋市には鹿屋基地（現在の鹿屋海上自衛隊基地）があり、1基の掩体壕がありました。しかし基地内の建設事業や掩体壕の移動、補修には莫大な資金がかかるとして、**2017年に鹿屋基地の掩体壕は解体され、現在はこの川東掩体壕の脇にその一部が展示されています（②）**。川東掩体壕は後部の奥壁はなく、開口しています。内部を観察すると木の板痕ではなく、コンクリートの袋を重ねて築造しており、鉄筋も使用していません（③）。**限られた資源の中で急造する必要があったため、必要最低限で築造された**と考えられます。





出水市には**小型有蓋掩体壕が2基、中型掩体壕が1基**残存しています。掩体壕1（①）はコンクリート製有蓋掩体壕で、隣接する掩体壕2（②）も似た姿をしています。この2基の掩体壕の奥壁の開口部は棒状に伸びており、上から見るとハンドベルのように見えます。この外見は出水市の掩体壕にのみ見られる特徴です。**掩体壕1と掩体壕2は整備され、公園**になっています。下の写真は有蓋中型掩体壕（③）です。前方が崩落し奥壁の一部が残存しています。崩落前の姿は、背面こそ棒状に伸びる部分はありませんが、掩体壕1、2と似た姿だったと思われます。この**中型掩体壕は戦後荒れ果てていたところを市民の方々が切り開いて整備を行い、看板や花を植えて、見学ができる**ようになっています。

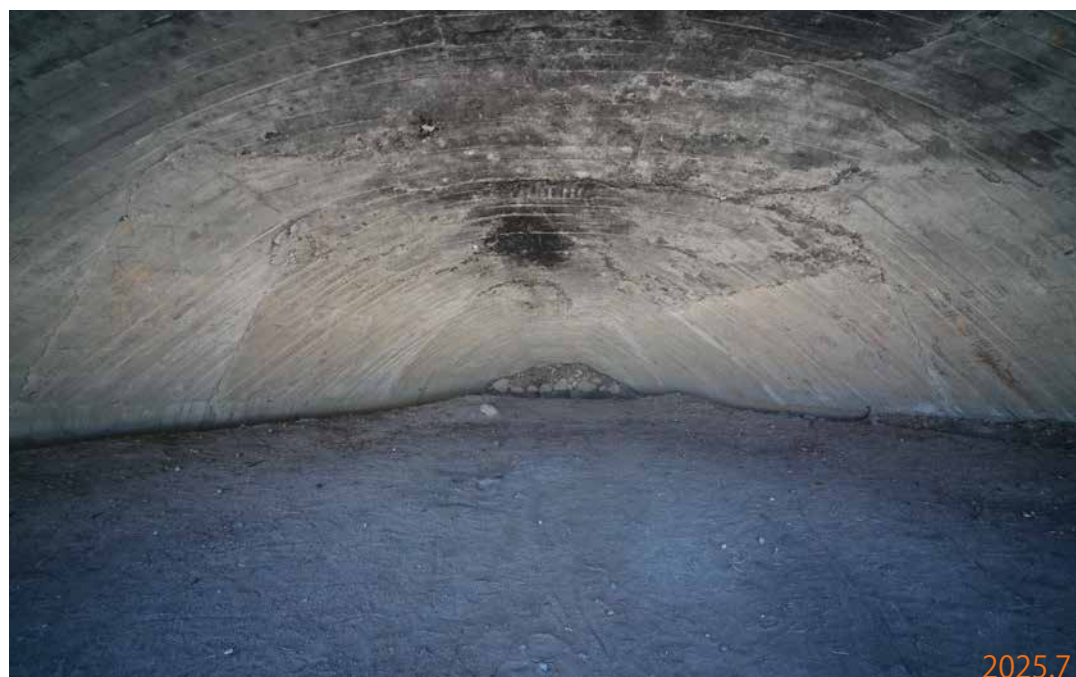


大村航空基地

海軍
長崎県大村市



長崎県大村市には **1 基の有蓋掩体壕が現存**していますが、戦後に掩体壕の外壁にはモルタルで階段と滑り台、展望台が作られ、**公園の遊具の一つとして使用**されています。正面の左側の端が長く伸びているのは、戦後遊具にする際に改造をしたためで、よく見ると、色が違うことがわかります。現在は戦後に貼り付けたモルタルの劣化から、遊具の機能は一時中止していますが、**今後は文化財としての側面から活用も検討もしている**とのことです。掩体



壕はドーム型をしており、内部は築造するときに、コンクリートを複数回に分けて流した様子を観察することができます。この掩体壕はほかの地域の掩体壕と違い、**正面の^{まえたれ}前垂に段差がある**のが特徴的です。

高知航空基地

海軍
高知県南国市



3D モデル QR (Sketchfab)



高知県南国市には 41 基あった掩体壕のうち、**7 基のコンクリート製有蓋掩体壕が現存**しており、**全て市の指定史跡**になっています。4 号掩体壕（①）は中型掩体壕です。後部は前部と同じ高さをしています。前部の両サイドには支脚が 9 つ並んでいます。5 号掩体壕（②）は公園整備されており掩体壕内部にも入ることができます。掩体壕内面には木の板痕が見られますが、一部足跡の転写があり、小型掩体壕は全て土盛りで築造したという証言も残っています。7 号掩体壕（③）は凸型のコンクリート製有蓋掩体壕です。外観は 5 号に似ていますが、内部にはコンクリート袋の痕や、ムシロの痕が残っており、5 号より粗雑なつくりをしています。**現在は後部の奥壁を貫通させ、道として利用され、車も通行しています。**

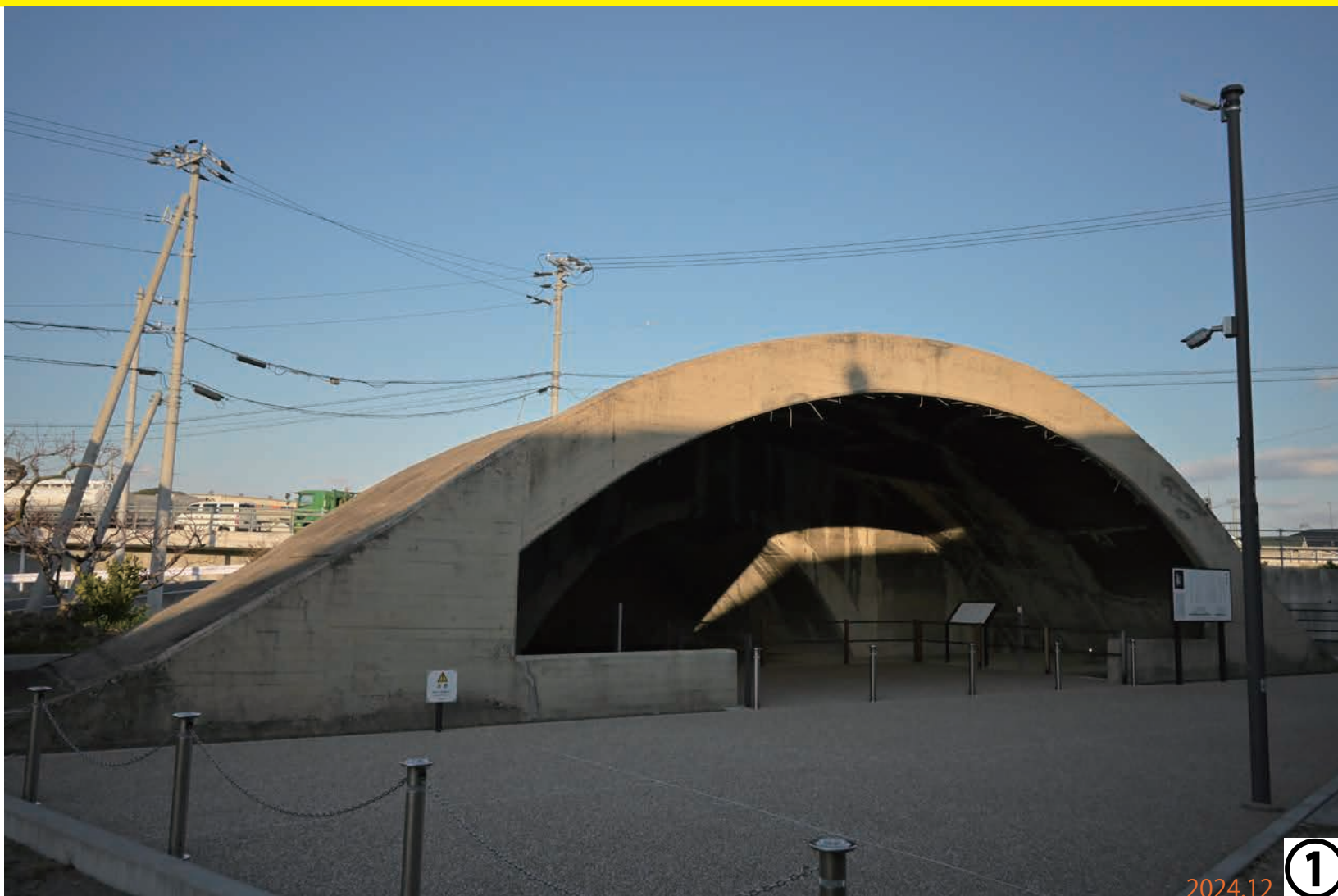


松山航空基地

海軍
愛媛県松山市



3D モデル QR (Sketchfab)

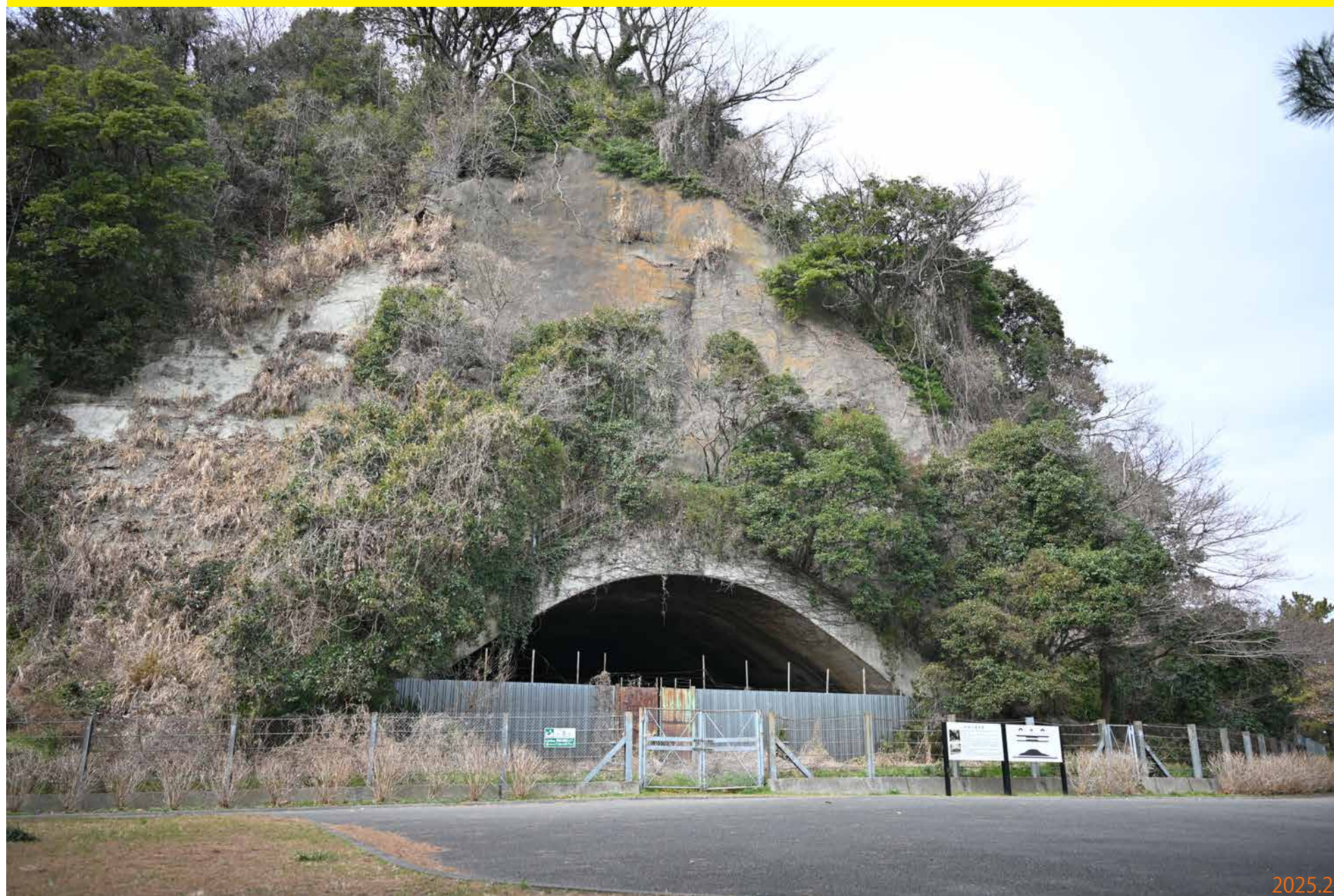


松山市には **3基のコンクリート製有蓋掩体壕が現存**しています。松山海軍航空基地掩体壕は**戦跡が時代とともに消えてゆくなかで、掩体壕の保存を望む声が多く寄せられ、2018年に市の指定文化財**になり、整備されています（①）。構造は前部、後部共にアーチで凸型をしています（②）。前垂の形状は上方を大きく開けて多様な種類の機体を入れることができるようにしています。掩体壕内部の中壁には「極天隊」（③）、「401」、後部の壁には「剣部隊」と書かれています。掩体壕の発掘調査で床面から水はけを良くするための^{あんきょ}暗渠排水（④）をつけていたことが分かりました。



よこすか 横須賀航空基地

海軍
神奈川県横浜市



2025.2

掩体壕といえば凸型やコの字型のものを想像すると思います。横浜市にある野島の掩体壕は^{すいどうしき}**隧道式（トンネル）**という**特異な姿**をしています。野島山を両側からくり抜き貫通させ、両方の入口をコンクリートで固めた巨大な掩体壕です。全長約 260m もの長さを誇り、**全国最大規模**になります。飛行機の出入口は両側にあり、機体を複数機入れることができます。出入口の開口部には木の板痕が残っており、幅は約 20m です。両側はコンクリートですが、中央はやや幅が狭く、素掘りとなっています。現在は安全のため内部には入れませんが、説明版が設置されています。

開口部に前垂はありませんが、木の板痕が見えます。



2025.2

いんば 印旛飛行場

陸軍
千葉県いんざい印西市



千葉県いんざい印西市には郵便や通信、運輸を管轄した逓信省ていしんしょうの印旛地方航空機搭乗員養成所（印旛飛行場）がありましたが、昭和 19 年になると、首都防衛のため、陸軍が使用ようになります。現在 **1 基の無蓋掩体壕（①）が現存**しており、囲いと看板が設置され、整備されています。掩体壕の周囲から背部は窪地くぼちになっており、周囲と内部を掘りくぼめて、その土を盛ることで、築造したものと思われます。この無蓋掩体壕から 850m 程の距離にある公園の中には、**U 字型の土手の中に飛行機型の砂場**があり、無蓋掩体壕の格納状況を表し



ています（②）。公園内には看板も設置されており、**戦争が確かに存在した記録がある中で、周囲の住宅街から遊びに来た子どもや親子連れが楽しそうに遊んでいる平和な景色が広がっています。**

もばら 茂原航空基地

海軍
千葉県もばら
茂原市



2025.2

千葉県茂原市には **10 基の有蓋掩体壕が現存**しており、**有蓋掩体壕の残存数では宇佐市に並び全国でも多い都市**です。3 号掩体壕はコンクリート製の有蓋掩体壕です。内面には木の板痕が確認できますが、掩体壕の形状に土饅頭を造った後、木の板やムシロを並べ、鉄網をしいてコンクリートを流したと市の設置した説明板には記載されており、Z5 工法を使用したことが分かります。内面下半部はムシロ、天井部は木の板を使用しています。隣接する 2 基の掩体壕は道路からも観察ができますが、外観やつくりが類似しています。築造には よこすかちんじゅふ 横須賀鎮守府の海軍設営隊が行いましたが、**近隣の学生や住民も動員された**ことが確認されているようです。



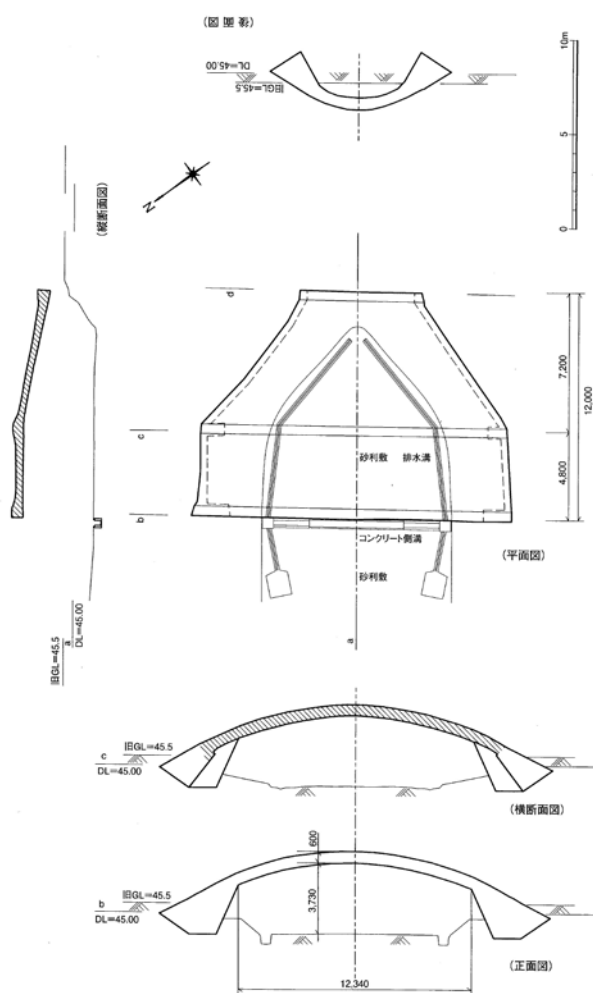
2025.2

ちょうふ 調布飛行場

陸軍
東京都府中市
東京都三鷹市



旧陸軍調布飛行場跡の掩体壕は2市に2基ずつ計4基の有蓋掩体壕が残存しています。府中市の白糸台掩体壕(①)は掩体壕を保存整備してほしいとの市民からの要望により発掘調査が行われ、公園として整備が行われました。正面には前垂が無く、広く開口しています。



白糸台掩体壕推定復元図 1/400

府中市教育委員会 2008『白糸台掩体壕
保存整備に伴う調査報告書』より引用

土饅頭を造りコンクリートを流して築造しています。発掘調査の結果から排水溝やタイヤの痕跡等が見つっています。

大沢1号掩体壕(②)、大沢2号掩体壕(③)は三鷹市内の公園を造る際に整備されました。大沢1号掩体壕は内部をふさいで、^{ひえん}飛燕のイラストを描いており、飛行機の格納状態を表しています。大沢2号は内部をふさいでいないため、外から観察ができます。これら3基の掩体壕は宮崎県新富町の掩体壕と似た姿をしています。



かすみがうら 霞ヶ浦航空基地

海軍
茨城県阿見町



茨城県阿見町には**コンクリート製有蓋掩体壕が1基**残存しています。**霞ヶ浦海軍航空隊有蓋掩体壕は町の指定文化財**ですが、個人所有の土地にあります。現所有者の親族は、戦後航空隊の敷地が払い下げられた後、掩体壕の内部に小屋を建て、生活をしていたそうです。掩体壕は明かり窓や、一部を通路や部屋に改造されており、資源が少ない戦後の生活を物語っています。**戦後周囲の掩体壕が内部に使用している鉄筋や鉄網などの鉄資源回収のため、次々と解体されて消えた**そうです。この掩体壕も道路建設の計画時には取り壊しの対象となっていました。が、**所有者の親族は掩体壕が壊されないように要望を行い、解体をまぬがれ現在も阿見町にその姿を留めています。**この掩体壕は**阿見町の戦争中と戦後の歴史を語る貴重な戦争遺跡**となっています。



ねむろ 根室第二飛行場

海軍
北海道根室市



3D モデル QR (Sketchfab)



やや高くなっており、地面を掘り下げた可能性があります→

2024.11

根室半島には滑走路跡などの戦争遺跡が残存しています。そのうち**掩体壕は一部崩落などしているものの、7基の有蓋掩体壕が残存**しています。この掩体壕の正面には海軍によく見られる^{まえたれ}前垂はなく、広く開口しています。掩体壕の前は誘導路跡が残っていると思われます。その両袖の土は土手状に一段土が高くなっており、周囲を掘り下げて築造されたと推定されます。この掩体壕も別海町のものと同様、他の地域に見られる掩体壕よりも内部の**亀裂と雨漏りが多く確認**されます。根室市で見られるほかの掩体壕の作りは基本的に同じと考えられます。



後部はドーム型

前部はアーチ型

内部は亀裂や汚損が進んでいます。

2024.11

けねべつ 旧陸軍計根別第一飛行場

陸軍
北海道別海町^{べっかい}



3D モデル QR (Sketchfab)



2024.11

北海道別海町^{べっかい}には現在 3 基の有蓋掩体壕、滑走路までの誘導路、倉庫の基礎等が残存しています。旧陸軍計根別第一飛行場 1 号有蓋掩体は町の歴史文化遺産に指定されています。地面を掘り下げて築造されており、戦後 80 年のなかで内部は土で埋まっています。内面には木の板痕があることから、型枠を使用したと思われます。冬が長く寒さが厳しい北海道の気候から、他の地域と比べて、ひび割れ、雨漏りによる漏水、コンクリートが溶けてつらら状になっているところも多く見られます。



2024.11

内部のほぼ全面で、雨漏りがしており、内面の壁をつたって壁面を汚しています。
オレンジ色の部分は内部に入られている鉄筋のさびが染み出ているものと思われます。